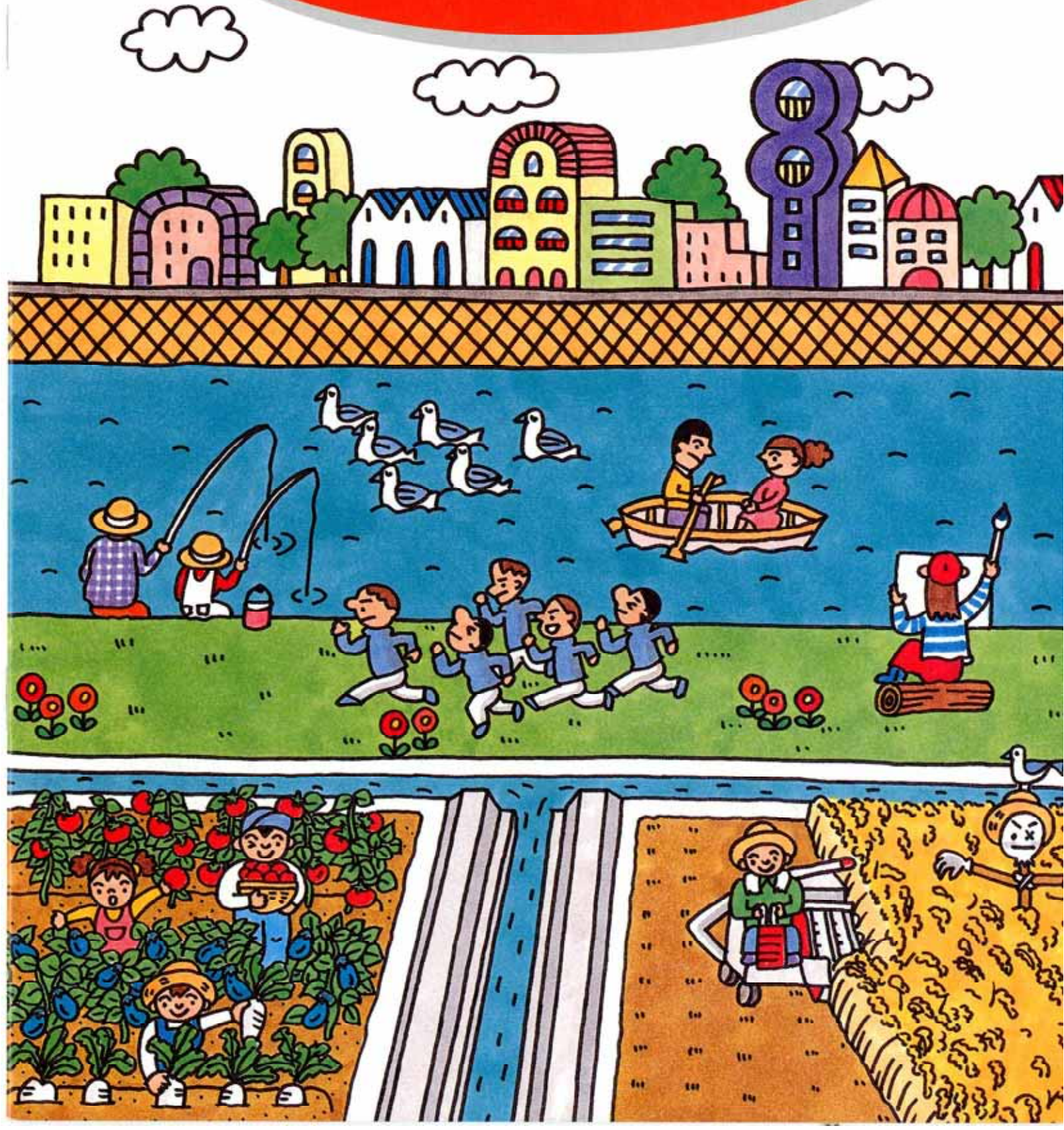


射水平野の いまとむかし

—いま住んでいる射水平野になるまで—



1.

は

じ

め

に

わたしたちが住んでいる射水平野^{いみずへいや}は、皆さんのお父さんやお母さんが小学校にかよっていたころとはちがって、広い道路がたくさん作られ、工場、住宅、あるいはショッピングセンター^たが建ち、どんどん発展しつつあります。

射水平野^{ようすいろ}には田んぼに水を引くための用水路がつくられました。また、田んぼでいらなくなった水^{あまみず}や雨水^{はいすいろ}を海に流す排水路と、排水路が流れ込んで大きくなった川がじょうぶに作り直されたり、新しく作られたりしました。田んぼの区画^{くかく}も大きくなったので、大型の機械で作業ができるようになり、昔とくらべて仕事はずいぶん楽になりました。また、大雨が降っても道路や家が水浸し^{みずびた}になるようなこともなく、安心して住めるようになりしました。

今から35年前(1960)ごろ、皆さんのお父さんやお母さんの小学生のころまでは、道路が少なく、曲がりくねった土でできた排水路や川が道路のかわりをしていました。かりとった稲^{いね}や農具などを舟ではこんでいたのです。また、田んぼの高さが海の水面より低いところでは、川に塩水^{しおみず}が入ってきて、川の水を田んぼにとり入れることはできなかったのです。

射水平野^{せんたい}全体の地面の高さが低く、排水路や川が小さくじょうぶでなかったため、雨が降るたびに水があふれ道路が通れなくなりました。時には住んでいる家にまで排水路や川の水がおしよせたそうです。田んぼが湖^{みずうみ}のようになってお米がとれないこともよくあり、とても不便^{ふべん}な生活をしていました。



そればかりではありません。夏の日照^{ひで}りには排水路からくみあげていた用水が少なくなり、田んぼに水をくみあげるのに、足ふみ水車を使うなどの苦勞が毎年つづきました。おまけに、田んぼは粘土をこねたようにやわらかいために、機械も使えず、腰^{こし}まで泥^{どろ}につかりながらの仕事で、ワイル氏病^{しびょう}という熱^{ねつ}のでる病気にかかる人もありました。

一番いそがしい田植えや稲刈^{いねか}りのときには、家族みんなが力を合わせた手作業で行われ、一年中朝早くから夜おそくまで働かなければなりませんでした。

それでは、どうして今のように、大雨の心配もなく安心してくらせるようになったか調べてみましょう。

ワイル氏病とは

水田や河川、沼地に発生しやすい風土病でひふや粘膜から病原体が体内に入る。

はじめ悪寒がし、高熱が出て重い時にはひふに出血をおこし死ぬこともある。

射水平野の歴史



排水路



稲刈り



むかし

今



2.

射

水

平

野

の

乾

田

化

(事業)

(1) 水とのたたかい -昭和35年(1960)ごろの様子-

昭和35年ごろの射水平野には、^{かじがわ}鍛冶川と^{げじょう}下条川という2つの川とたくさんの排水路がありました。それらの川は、今は富山新港になっている^{ほうじょうずがた}放生津潟を通して海に流れ込んでいました。

そのころ、川の水は農業用に田んぼの用水として使われるだけではなく、野菜を洗ったり、ふろやそうじや洗たくに使ったり、また防火用水としても利用していました。わたしたちの暮らしに大へん役立っていたのです。

わたしたちにとって、なくてはならない大切な水ですが、いったん雨が降れば排水路や川の水があふれ、^{いね}稲は水で見えなくなり、家は^{ゆかうえ}床上や^{ゆかした}床下まで水につかり、川や排水路がどこを流れているのか、また海との境は^{さかい}どこなのかわからなくなるようなことが、^{なんかい}毎年何回もありました。

田んぼで稲を作るために必要な用水は、夏の水がほしい時には水がたりなくて苦しみ、水のいらぬ時には排水路や川の水があふれて苦しむなど、毎日毎日が水とのたたかいでした。

(2) この^{でん}ドブ田を^{びでん}美田に -生まれかわるどろ田-
ア 農民のねがい

そこで、このような苦しみをなくそうと、大正6年に20代の若さで射水郡長として来られた^{なんばら}南原^{しげる}繁さんの力づよいすすめで、下条川の改修にとりかかりました。

川や排水路を広げたり、少ない数ではありましたが、排水路に流れてきた雨水を^{ほうじょうずがた}放生津潟にポンプでかき出すなどの工事がすすめられました。

イ 乾田化工事

大正の終わりごろから行われてきた改修工事について、もっと楽に農作業をしたり、安心してくらせるようにしたりという、人々の大きな願いがかなって、国の役所の1つである農林水産省や富山県の農林水産部などが直接工事を行う事業として、乾田化の工事が、本格的に取り組まれました。

雨が降っても排水路や川の水があふれたり、田んぼが水浸しになったりしないように、排水路や川の底を深くしたり幅を広げたりして、排水路や川から流れてきた水をポンプで海へかき出す、ポンプ排水機場を作る工事を行いました。田んぼの地下水を下げ、お米だけでなく、麦や野菜も作れる田んぼにする工事です。



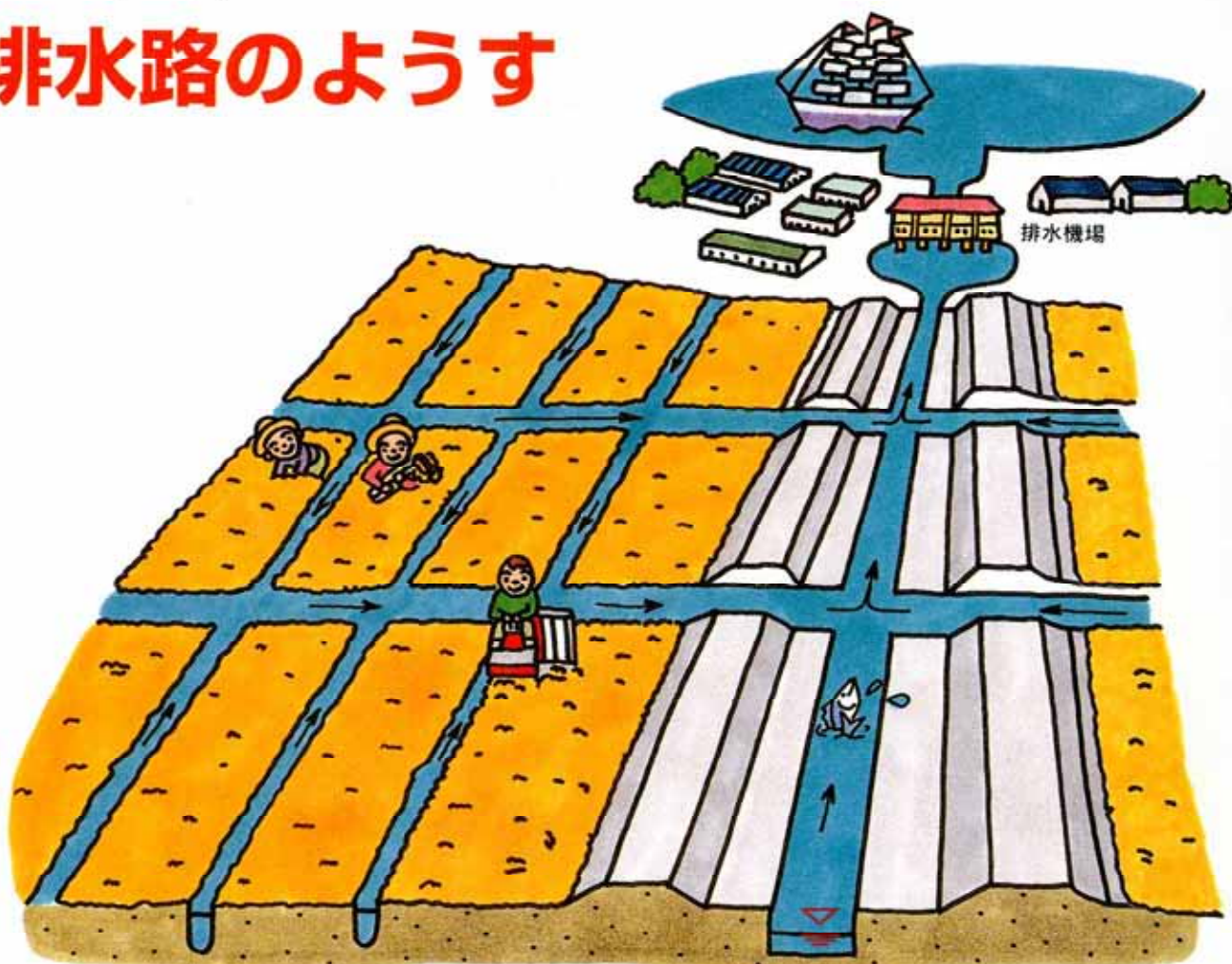
南原 繁さんの紹介

1889~1974

大正6年(1917年)から大正8年(1919)まで20代の若さで射水郡長として着任し、下条川改修工事を発起し、県知事に上申した。この工事施工は昭和に入ったが、射水平野乾田化事業のもとをききました。

また、射水郡立農業公民学校(現小杉高校)を創校した。後には、東大総長もつとめられました。

排水路のようす



排水機場の役割

安心して生活できるようになったんだよ!



排水機場がなかったらどうなるかな? AとBをむすんで水色をぬってみよう。住宅や工場が水の中になってしまうよ!



国営射水平野農業水利事業

この大きな事業は、昭和38年(1963)から工事が始まった、国営射水平野農業水利事業です。降った雨を海まで早く流し出すために、山手の雨水を直接富山新港に流す新堀川(鍛冶川から名前をかえた)や、排水路をじょうぶに作り直したり、新しく作ったりする工事が行われました。また、田んぼに必要なきれいな水を引き入れる用水路をじょうぶに作り直したり、新しく作ったりする工事を行いました。雨水から農作物を守り、水不足をなくし、大型の農作業機械を使って、楽に農業ができるようにするために、昭和51年(1976)まで行われました。

この排水路は、田んぼの地下水を下げ、しかも、田んぼに降った雨水を流しやすくするために、川底を田んぼよりも1メートル以上深くしますが、このままでは海岸線近くの排水路の水面は海の水面より低く、自然の力では海に流れません。そこでポンプの力でかき出す方法をとりました。大きなポンプ排水機場を射水平野の東部と西部の2ヵ所に作る工事が同時に行われました。

その事業により、射水平野の田んぼが乾田になっただけでなく、道路、住宅、工場、ショッピングセンターなどが安心して作られるようになり、市や町、村が現在のようににぎわうようになりました。

この国営射水平野農業水利事業で、じょうぶに作りかえたり、新しく作られたりした用水路と、川や排水路の長さは、射水郡から滑川市まで行ける長さと同じ2万9千メートルもあります。東部と西部とを合わせたポンプ排水機場のポンプは、1秒間に普通乗用車9台分の雨水を海にかき出す力をもっています。このために使われたお金は、全部で74億円でした。



また2つのポンプ排水機場のポンプは、1日中しかも1年中動かさなければなりません。これは、全国でもめずらしいものです。

和田川総合開発事業

乾田化すると田んぼに必要な用水は増えますが、それまで利用していた排水路の川底を深くしたために、田んぼに水を引くことができなくなります。そこで、大門町を流れる和田川わだがわに、川の水を止めて用水をとり入れる十一ヶ用水堰じゅういっかようすいぜきという堰を作りました。この和田川の水を使って、射水平野の西半分の田んぼに水を引く用水路が作られました。

そのおかげで、射水平野のすみずみまできれいな水が流れ、生活用水にも利用できるようになりました。

この用水を守り、水と農作物が豊富であるように祈りを込めて、新しく舟甲山和田川神社ふなこうやまわだがわじんじやが作られました。

この時に心配であった、射水平野の東半分の用水は、牛ヶ首用水改良うしがくびという名前の別の事業で、富山県の農林水産部によって工事が行われることになりました。

富山新港計画

ちょうどこの間、放生津潟を掘り込んで作る富山新港や、富山新港のまわりの田んぼを埋め立てて作る工場団地の工事と、下条川をじょうぶに作り直す工事が、富山県の事業として吉田実富山県知事の手で行われました。

県営射水かんがい排水事業

二番目に大きな事業は、昭和42年(1967)から昭和62年(1987)まで行われた富山県の農林水産部が直接工事をする県営射水かんがい排水事業けんえいです。

この事業は、富山県が農林水産省で作った大きな用水路や排水路に、小さな用水路や排水路をつなぎ、田んぼの一枚一枚に水を引き入れ、田んぼに降った雨水を早く流すようにするために工事を行うもので

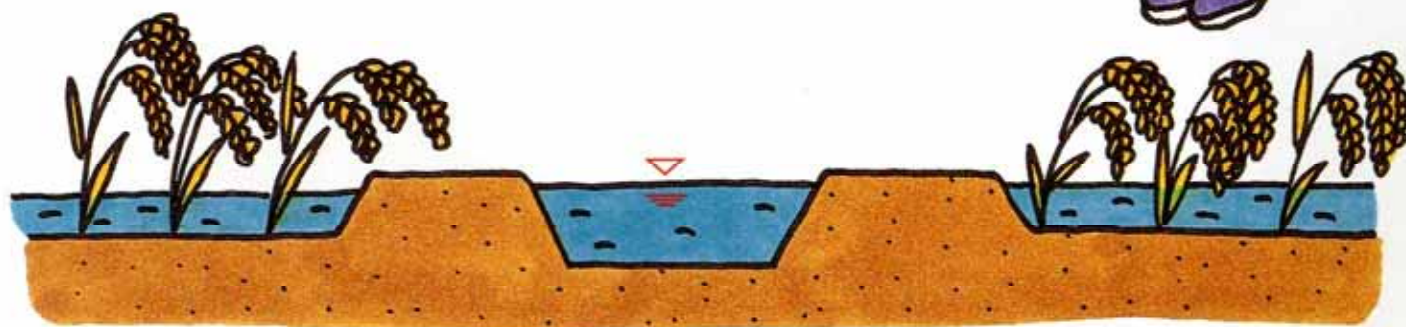
昔と今の 排水路のちがい

稲しかつくれ
なかったんだよ

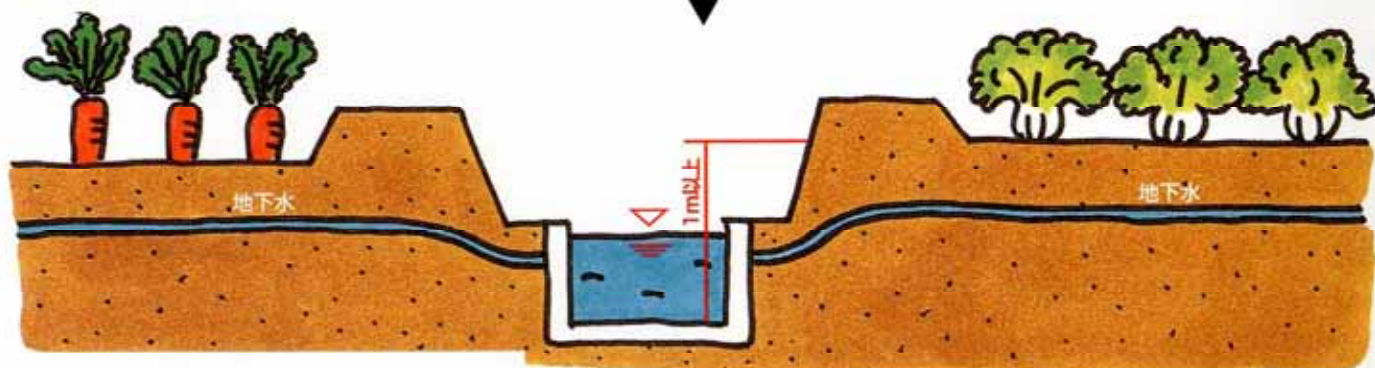


排水路の水面と地下水位は
同じだったんだ

むかし



いま 乾田化事業



地下水が下がり、
畑もできるよう
になったよ



す。用水路の長さ3万4千メートルと排水路の長さ5万2千メートルを合わせた、8万6千メートルの長さの水路がじょうぶに作りかえられたり、新しく作られたりしました。その長さは射水郡から新潟県の糸魚川市まで行ける長さになります。このために使われたお金は全部で103億円でした。

このような事業によって、乾田化の効果が一層すすみ、曲がりくねった小さな区画の田んぼを大きな区画の田んぼにする、ほ場整備事業が行われることになりました。そして、今のような大型の機械による農作業ができるようになったのです。

このように、射水平野の乾田化には、たくさんの人々の苦勞が積み重ねられ、長い年月とたくさんのお金がかかりました。

そのおかげで、今では緑豊かな田んぼが広がり、農業だけでなく、工業や商業などあらゆる産業が発展したのです。



富山新港

3.

こ

れ

か

ら

の

事

業

これら2つの大きな事業により、射水平野では昔のような水とのたたかいはなくなり、安心してくらせるようになりました。ところが、ちかごろ、心配なことがおきてきました。乾田化によって広い道路と工場や住宅などがたくさん増えたため、田んぼがへりました。その結果、雨が降れば田んぼで一度ためてからゆっくりと排水路に流すという、水をためるダムの役目が少なくなり、雨水がすぐ排水路に流れ出るようになりました。そのために、今ある排水路の大きさでは雨水を流し出せなくなりました。また、東部と西部のポンプ排水機場のポンプでは、増えた雨水を全部吐き出すことができないのです。しかも、能登半島の海の底でおきた地震がもとで、ポンプの力が弱まったため、田んぼなどがたびたび水につかるようになりました。

これはたいへん心配なことなので、農家のみなさんや町に住むみなさんが力を合わせて、国や県に新しい工事を行って安心してくらせるようにしてほしいと、一生けんめいお願いしました。平成3年(1991)から東部と西部のポンプ排水機場を大きくしてポンプの数を増やすことと、力が弱まったポンプを新しく作りかえることになりました。



●排水機 (増設分のみ)

項目 名称	位置	排水機			備考 (m^2/S)
		形式	口径(mm)	台数(台)	
東部排水機場	新湊市七美	立軸軸流 ◇	1,350	2	既設 22.5
			1,000	1	増設 10.5 計 33.0
西部排水機場	高岡市石丸	立軸軸流 ◇	1,350	2	既設 18.2
			1,000	1	増設 10.5 計 28.7
中央排水機場	新湊市片口	立軸軸流	1,350	4	新設 17.0



合わせて、新しく東部と西部のポンプ排水機場の
ちゅうかん
中間に中央ポンプ排水機場を作り、この3つのポ
ンプ排水機場に流れ込む排水路の川底を下げたり、
かわはば
川幅を広げたり、新しく中央排水路を作ったり
します。つまり今までの2倍の雨水を海まで
流すことのできる工事が、農林水産省が直接工
事をおこなう^{こくえいみずごうそうごうのうらぼうさいじぎょう}国営射水郷総合農地防災事業として
行われることになったのです。この3つのポ
ンプ排水機場を合わせて1秒間に普通乗用車18
台分の雨水をかき出す力をもたせる工事と、7千
メートルの排水路の工事を行うためには、192億
円のお金が必要で、平成12年度(2000)までに完成
するように、冬の間も工事が行われています。

また、この国営射水郷総合農地防災事業ができ
ない小さな排水路は、平成8年度(1996)からはじ
まった富山県の農林水産部が直接工事を行う、
^{こくえいふたけんえいみずごうのうらぼうさいじぎょう}国営附帯県営射水郷農地防災事業で工事が行わ
れています。この排水路1万8千メートルの工事
のために90億円のお金が必要で平成18年度
(2006)までに完成するように取り組まれています。



東部排水機場



射水平野の風景

今、射水平野では、排水する力を2倍に引き上げるために、農林水産省が直接工事を行う国営事業と、富山県の農林水産部が直接工事を行う県営事業とが行われています。

この2つの事業を仲良く行うことによって、射水平野の田んぼと工場や住宅が水浸しになることから守られ、今よりもっと安心して暮らせるようになり、市や町、村がたいへんにぎわうことになります。

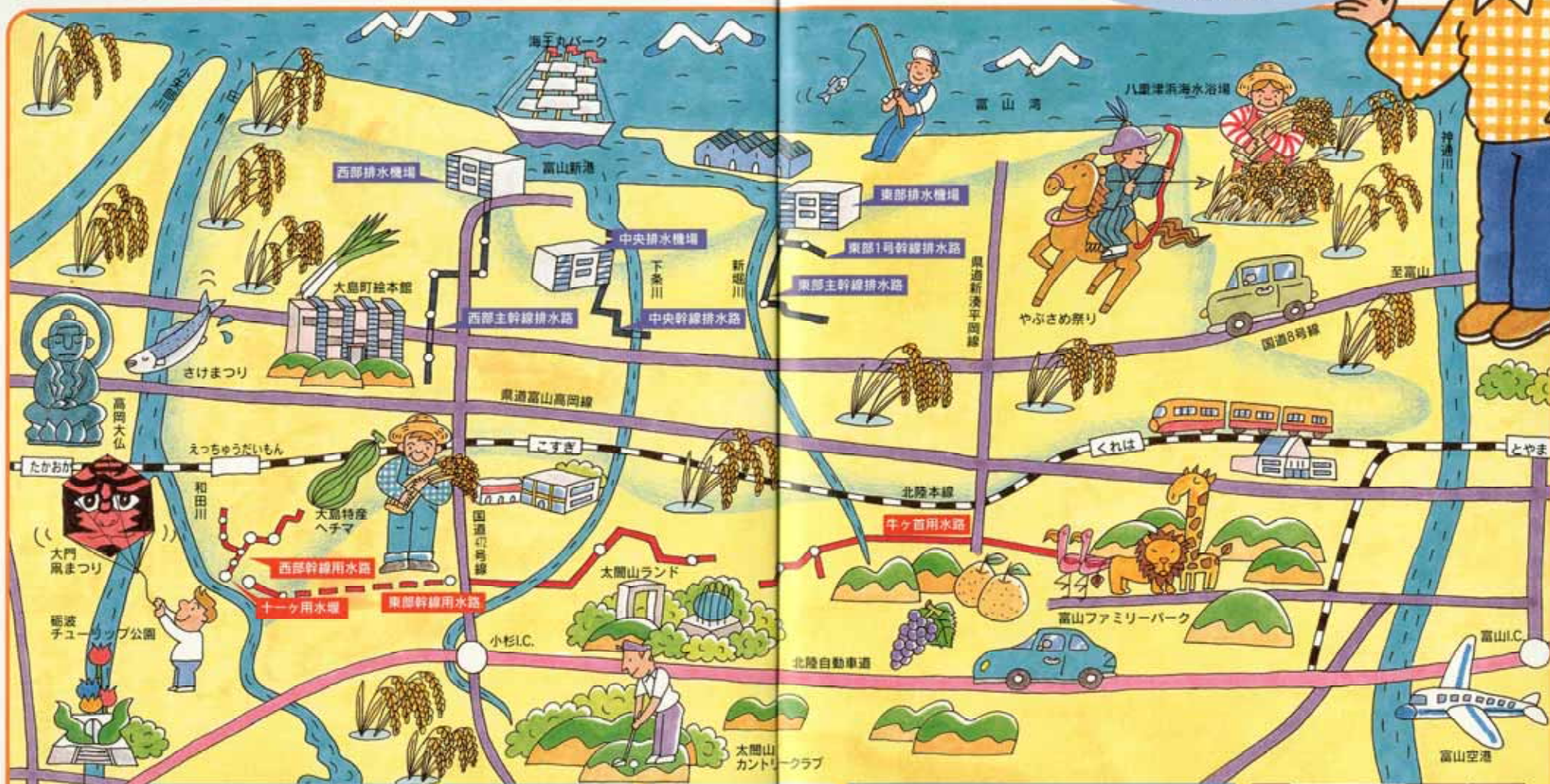
このように、射水平野を水の災い^{わざわ}から守り、射水平野に住む人たちが安心して暮らせるような取り組みが、長い年月とお金をかけて行われてきたのです。そして、今もまだ続いているのです。みなさんもこのことを忘れず、ふるさとの射水平野をみなさんの手で守りましょう。

みんなで話しあって、空きカンやゴミを用水路や排水路に投げすてないことから、はじめようではありませんか。



射水地区のあんない

内は、排水機場により
野菜等も作れるようになった
区域だよ。



●新湊・海王丸パーク



●小杉町・太閤山ランド



●大門町・たこまつり



●大島町・絵本館



●下村・やぶさめまつり

射水郷農地防災事業推進協議会

所在地 〒939-0341 富山県射水郡小杉町三ヶ624番地

電話 (0766) 55-2511 FAX (0766) 55-4000

e-mail: imizuheiya @ nifty. com